

idea

ニュースレター「アイデア」

2022. 4

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 好観堂骨董店 店主 木村正明さん(後編)
- 3 | 団体紹介 | ふじさわ語り部の会
- 5 | 地域紹介 | 外山東部自治会(川崎)
- 7 | 企業紹介 | 株式会社常州園(一関)
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴②
- 9 | センターの自由研究 | 末裔調査ファイルNo.3「昆野八郎右衛門」

今月の表紙

室根町矢越の釘子地区にある「昆野八郎右衛門神社」。一見変わった名前の神社ですが、その名の通り、昆野八郎右衛門がお祀りされています。この神社境内にある石碑の中には「昆野家の先祖 長曾我部主水之碑」として、長宗我部家の家紋・酢漿草まであしらわれたものが(中央奥の碑)。昭和55年建立の碑ではありますが、その真相とは？(自由研究)

お知らせ

企画展

企画展
「一関の埋蔵文化財
VOL II」

「せんまや街角資料館」では表記企画展を下記日程で開催します。八丁館遺跡、長平遺跡、大馬場遺跡の出土資料の展示のほか、かつて一関市内で行われていた窯業の道具を紹介する「新発見の窯道具」も併催。詳しくは下記までお問合せください。

開催期間: 2022年4月26日(火)～6月19日(日)・

※月曜日ほか休館日あり

時間: 9時～16時30分

料金: 入館料無料

場所: せんまや街角資料館
(一関市千厩町千厩字北方129-1)

問合せ: 0191-51-3883
(せんまや街角資料館)

情報

就職氷河期世代支援事業
「いちサポ・ネクストリー」

いちのせき若者サポートステーション(通称: いちサポ)では、「就職氷河期世代」の就労支援事業をスタートしました。バブル崩壊後の1990～2000年代、雇用環境が厳しい時期に就職活動を行い、現在も様々な課題に直面している方々(概ね35歳～55歳未満)を対象に、就職や転職を応援するプログラムです。職場体験や見学、仕事に役立つセミナーへの参加のほか、希望職の職業訓練を受けることも可能。詳しくは下記まで。

事業名: 就職氷河期世代支援事業
「いちサポ・ネクストリー」

問合せ: 0191-34-9770
(いちのせき若者サポートステーション)

情報

「狐禅寺スマイルリレー」
絶賛公開中!

狐禅寺地区の「KMY(狐禅寺・みんなして・やっべし)プロジェクト実行委員会」内「狐禅寺『未来図会議』」では、2019年より、地域PR動画をYouTubeにて公開しています。

第3弾となる今回(2022年2月公開)は、地域住民35人が参加。リレー形式でバトンを繋ぎ、狐禅寺地域の絆と笑顔溢れる地域を表現しました。ぜひご覧ください。

※「令和3年度いちのせき元気な地域づくり事業」で制作しています。

右のQRコードから
視聴可能(YouTube)→
問合せ: 0191-21-2155
(狐禅寺市民センター)



情報

「花の駅せんまや軽トラ市」
再開予定のお知らせ

冬季休業していた「花の駅せんまや軽トラ市(主催: 清田親交会・小梨自治振興協議会)」は2022年4月17日より再開予定です。清田地域の方を中心に、荷台いっぱいの新鮮野菜などを積んだ軽トラが毎月10台ほど並びます。詳しくは下記まで。

開催日: 毎月第3日曜日(～12月)
※新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては中止・延期の可能性あり

時間: 9時～12時

場所: 「花の駅せんまや」駐車場(広場)
(千厩町清田字境)

問合せ: 090-3758-0469
(清田親交会事務局・千葉)
※小梨市民センター(52-2496)でも可

譲ります

馬の堆肥
さしあげます

馬の堆肥を家庭菜園等で使ってみませんか。おがくず堆肥なので、匂いも少なく、扱いも容易です。

牧場まで取りに来てくださる方には無料でさしあげています。約20km圏内であれば軽トラック1台3,000円で運搬の対応も可能です(20km以上の遠方の場合は要相談)。

完熟堆肥ではありませんので、必要に応じて熟成させてください。

場所: 佐々木牧場
(一関市中里字大平山23-76)

※「山桜桃の湯」さん近く
問合せ: 0191-48-4461/
080-1841-1800(佐々木)

情報

メールマガジンにて
助成金情報等
「号外配信」追加

いちのせき市民活動センターでは、主催講座や助成金情報、本情報誌『idea』最新号などの情報をメールマガジン(メルマガ)にて毎月1回配信(月初)しています。2022年4月からは通常配信に掲載できなかった助成金情報(受付期間が短く、翌月の配信時に掲載が難しい情報等)などを号外として配信させていただきます。

メルマガの登録(無料)は
右記QRコードを読み込む
か「いちのせき市民活動
センターメルマガ」で検索
すると上位に出できます。

問合せ: 0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)



まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。



旧町村別の人口動態等を共有します。

作品名 「雪化粧のたまご湯」



千厩町小梨内にある「煙ノ沢鉱泉たまご湯」は、地元自治会が運営するアットホームな温泉施設で、「タマゴ」のような匂いがすることが由来ですが、現在のお湯は無味無臭で、少しとろみがあるのが特徴。敷地内で植樹活動を行うなど、訪れる人の目も休ませます。

2022年3月1日付
(2022年2月28日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体		前月比
人口	111393	-237
世帯数	46242	-59
出生数	28	-9

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	55240	-102	24399	-32
花泉	12362	-30	4696	-8
川崎	3355	-6	1284	0
千厩	10121	-25	4088	-9
大東	12339	-38	4922	-4
東山	6084	-20	2285	-3
室根	4556	-6	1777	-1
藤沢	7336	-10	2791	-2

160 / 111,393

木村 正明

一関市山目字十二神に店舗を構える「好観堂骨董店」店主。昭和59年から毎月第4日曜日に仙台市青葉区の東照宮境内で「仙台古民具骨董青空市」を主催するほか、毎月17日は「業界専用骨董オークション交換会」として古物商許可を持っている人向けの市場を主催。趣味はスノーボード、テニス、空手など体を動かすこと。昭和28年、気仙沼市生まれ。



店内の様子

第94回

(有)好観堂骨董店 店主 木村正明さん

いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

「先祖が遺した物」を正しく「処分」する ～骨董屋は‘物’をつなぐ‘仲人’【後編】～

敷居の高いイメージを抱きがちな「骨董屋」。両親や祖父母など、先祖から引き継いだ物品の処分に頭を悩ませて、リサイクルショップや出張買取業者など、処分先の選択肢が増えたこともあり、「骨董屋」に依頼するという選択をする人は多くはないでしょう。「終活」における「生前整理」に着手する人が増えている今、「骨董屋」が担う役割を伺いました(2回シリーズの後編)。

小野寺 漆塗りのお椀など、会席膳の多くは骨董的価値はない(「骨董屋も買わない」という話でしたが、今後、会席膳等はどう扱うことが適当でしょうか？)

木村 普段の食事で使えば良いんです。需要がないから値段がつかないだけで、物自体は良い物なんです。当時は高価な物だったため「大事に使った」でしょうが、値段がつかない今となつては、普通の食器と同様に使い、壊れた時に捨てれば良い。プラスチックのお椀とは全く口当たりが違いますから、ぜひ使っていた方がいいです。

小野寺 お蔵入りにせず、使うべき、と。何年後かに価値が出る期待はないですか？(笑)

木村 ないですね(笑)なぜかと言うと「使い捨ての時代」だから。「割れても良い」という理由で、せともの屋ではなく100円均一店で食器を買う人が増え、せともの屋も潰れてしまっ

た。需要が出ることはまずないでしょう。ただ、100年後くらいに、他の人たちがみんな処分した後に「これ、昭和1桁のものだよ」となれば、珍しがるかもしれない。

小野寺 粘ったもん勝ち(笑)ただ、そうなるかどうかは分からないので、普段使い用にしたい方がいいということですね。

木村 昭和の食器は正直あまり面白みがなく、古さしか感じませんが、明治以前の食器は分厚かったり、絵柄の図案に獨創性があったり魅力が多いので、必ずどの時代でも興味がある人はいます。それに、震災や空襲で焼失してしまったものはもう二度と戻ってきませんから、金額うんぬんではなく「残っている」ということ自体が貴重です。

小野寺 千厩で毎年開催される「せんまやひなまつり」にも江戸時代の雛人形が展示されますが、やはり価値がある？

少なくなりました。

小野寺 かつて骨董品に熱心だった人が収集した物は今はどうなっているんでしょうか？

木村 それこそ終活の年代に入った人も多いので「市場で売って欲しい」と頼まれることも増えてきました。買った当時より安い値段にしかならない時は切ないですが、そうやって世に出てきてさえくれれば、後世に残ってくれますからね。

小野寺 後世に残すべきものかどうかのアドバイスをしてくれる人の存在が必要ですね。

木村 分からないことは分かる人に聞くことが一番です。骨董屋に出すべき物、リサイクル店に出すべき物、捨てて良い物、そして金額うんぬんではなく「家で大切にすべき物」のアドバイスはいつでもしたいと思えますので、お気軽にご相談ください。

小野寺 残念な「終活」をしないうちに、ですね。

木村 「価値」と言う表現はちよつと違うかな。200年も前のものが、今の時代に残っているということはすごいけど、たぶん「高価な物だから残っていた」のではなく「たまたま残っていた」。昔は雛人形なども服のおさがり同様「自分の時に飾ってもらった雛人形を、自分の娘にも」と、代々使ってきたはず。それがどこかの時代で「自分の娘には新品が良い」となり、祖父母が孫のために新品のお雛様を贈る文化になつてしまった。過去の人が使ったものを嫌がる、人間の感覚が変わつてしまつたんですね。

小野寺 代々使う文化のままなら、もつと多くの家に残っていたわけですね。雛人形まで使い捨て状態……。でも人形を作る側は心を込めて作るわけで……。

木村 もちろん。昔の職人さんたちは特に、金額どうこうじゃなく、自分の技術を見せたかったわけですね。そのために精魂込めて仕事をしたのですが、今の人は「1日0円」という労働単価。だからプラスチックに目鼻を描いたような物でも5万や10万と高いんですよ。日本人

のもつ「高い物は良い物」というイメージも影響していて、「孫には良い物を」と、5千円の雛人形より10万円の雛人形を選んでしまう。逆に、木に漆をかけて、着物も全部刺繍したような本当に良いもの(古いもの)が、今の需要では千円台になつてしまつていて……。

小野寺 そうすると、今の時代の五月人形や雛人形は将来も骨董品としての値段はつかない？

木村 全くつきませんね！

小野寺 「作品」か「商品」か、ということですかね。

木村 要は需要の問題ですから。希少価値のあるもの、1点ものは欲しい人がつきやすい。ちなみに、今は正絹の着物ですら値段がつかないことが多いです。東京には正絹の古着物の100円均一店まであるほどです。

小野寺 正絹の着物が100円!?

木村 以前、茶道をしていた亡き母の着物を処分して欲しいと50着程預かり、私の主催する骨董市で出品したことがあります

が、状態が良い物であっても、古い物に袖を通す人が少なくなり、着物としてではなく、リメイクしたり、小物作りの材料として購入する人の方が多かつたように感じます。

小野寺 着物の「着物」としての需要がなくなると、値段設定は確かに難しいですね……。

木村 私たち骨董屋の品物も「値段はあつてないようなもの」と言われがちですが、私たちはプロなのでちゃんと値段がつけられます。業界のその時その時の卸値段に準じているので。古物商のライセンスを持った人しか入れない市場があり、私も月に2回主催^{※2}しますが、そこで値段が決まつてきます。

小野寺 骨董業界そのものは今も盛り上がっているのですか？

木村 正直、日本人は骨董品を買わなくなり、今は中国の富裕層の間で骨董品ブームです。ただ、それもテレビなどの影響が大きく、誰かが「鉄瓶が良い」と言えば鉄瓶ブームが起る、という感じですよ。鉄瓶ブームは去つたので、鉄瓶も需要が

(有)好観堂骨董店

住所 一関市山目字十二神123-2
電話 0191-231-888

※2 古物商間の古物の売買又は交換のための市場を営営するには、「古物商」の許可はもちろん、「古物市場主許可」が必要。

※1 前編(情報誌『idea』2022年3月号)参照。

団体紹介

ふじさわ語り部の会

平成27年結成。毎月の定例会で地域に伝わる昔話・伝説を方言(藤沢弁)に書き換え、藤沢地域のお茶会、老人福祉施設等で「語り」として披露(コロナ禍で定例会は自粛中)。現在の会員は6名。

〒029-3311 一関市藤沢町黄海字京堂101-7
(事務局：千葉)
TEL & FAX：0191-63-4424

写真：紙芝居を活用した「語り」の様子。



みんなに聴いてもらえる昔話を目指して

「石になった和尚さん」「正坊滝」など、昔話が数多く残る藤沢地域。物語に目を通すと「申楽を見逃したシヨックで和尚さんが石になってしまった」「正坊滝でつかまえたウナギがしゃべった」など、物語の展開は非現実的な部分がある一方、舞台となる地名は明確で、藤沢の各地区に今も残る史跡等と関連がある物語が数多く存在するため、「もしかしたら本当に？」と思ってしまう。

平成25年、旧藤沢公民館が「いちのせき元気な地域づくり事業」で取り組む新たな内容を住民主体で検討する機会(ワークシヨップ)を設け、当時藤沢図書館の職員だった「ふじさわ語り部の会」会長の千葉幸子さんも参加しました。

地域づくりにつながる事業を検討する中で「藤沢に伝わる昔話を後世に伝えたい」という声が上がリ、幸子さんも「子どもたちにも分かりやすく伝えられるように紙

「ふんつああ弁」で地域の歴史を面白く

ふじさわ語り部の会

芝居や絵本を作りたい。できれば藤沢弁^{※3}を交えて作り、語り継ぎたい」という想いを共有しました。その想いが具現化し、平成26年7月、同事業の一環として「藤沢のむかしばなし伝承プロジェクト」が発足。昔話を題材にした紙芝居の制作、昔話・伝説のリスト化のほか、藤沢地域に主軸を置いた「語り部の会」設立に向けた動き(語り部の養成)も盛り込まれ、取り組みがスタートしたのです。

※1 日本における伝統芸能のひとつ。現在は「能楽」と呼ばれているもの。
※2 藤沢町と宮城県登米市の県境に実在した滝で、現在は相川ダム^{※3}の湖底に沈んでいる。
※3 旧藤沢町近辺の方言。「ふんつああ弁」とも言う。

語りの技術を学び、語り部の会設立へ

同年11月、同プロジェクトで「語り部養成講座」を開催すると、プロジェクトチームメンバーと一般市民合わせて23人が参加。講師は「いちのせき語り部の会」の佐藤軍治さんで、方言を交えた語りの注意点や、語りのリズム感などを学びました。初めて生の語りを

次の世代へつないでいくための仕組みづくり

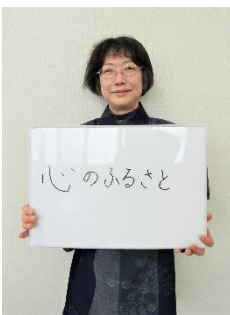
平成27年の結成以来、藤沢町内のお茶会や高齢者福祉施設、老人クラブ、さらには方言川柳大会(藤沢町芸術文化協会主催)など、地域内の各所で昔話を披露している同会。コロナ禍で聴衆を目的に話をする機会は減少、定例会すら開催しにくい状況になっていますが、令和3年11月末、「ふじさわ地域包括支援センター」が運営する高齢者サークル「にこにこ来楽歩」にて久しぶりに語り部の機会が。感染対策を施しながらの発表でしたが、「懐かしい」「若い人にも聞かせたい」という嬉しい声をいただきました。

幸子さんは、「昔話の原稿作り作業や発表を通し、伝承の『形』は作りました。それをどう活かしていくかが今後の課題です。今まで聴衆のほとんどが高齢者で、子どもたちに読み聞かせの機会がなかったたので、学校や図書館で読み聞かせがある時は、語り手として協力したいですし、多様なメディアの時代だからこそ、1つでも多く昔話を伝承していきたい」と、今後の抱負を語ります。

会員の高齢化など、発足から7年で会員が半数になりましたが、「興味の

Q.あなたにとって「昔話」とは？

会長



A. 心のふるさと

ちば さちこ
千葉幸子さん

伝承プロジェクト発足時からリーダーとして活躍。「自分自身が地域の文化・伝統を見つめ直すきっかけになった」と語ります。

事務局



A. 地域のお宝

ちば まつお
千葉松男さん

発足当時は旧藤沢公民館長として伝承プロジェクトや同会に関わっていました。記憶力を鍛えるため、一人一話は昔ばなしを暗記することが目標だとか。

ある方は会員として大歓迎です!」と、地域に伝わる昔話を、地域の言葉で次の世代に語り継ぎたいという意欲は、構想段階当時のまま、今も健在です。

※4 直訳すると「赤ちゃんが入ったまま揺り籠がひっくり返った」。「赤ちゃんが大きくなった」。転じて「めでたし、めでたし」というニュアンス。

- Photo



昔話の舞台・同町増沢の「立石神社」。社殿後方には「和尚さん」だったと伝えられる大きな岩がそびえ立ちます。

石になった和尚さん



台本と、そのベース
台本製作の元になる資料(左)と、同会の台本をまとめた冊子(右)。「えんつこ」は「えじこ(嬰兒籠)」のことを指します。

gallery -



同町内のグループホーム「やまばと」での発表。昔話を聴くと、脳が活性化することもあるとか(写真は平成29年6月)。

こんな話あったつけない



発表時は半纏を着用し、紙芝居も活用するなど、目と耳で昔話を楽しめるよう工夫しています(写真は令和3年11月)。

昔話の世界へ

地域紹介

外山東部自治会(川崎)

川崎町薄衣地内、国道284号線の川崎小学校付近から北方に広がる中山間集落。57世帯約180人が暮らす。自治会活動は部会を中心に行われ、総務、産業、体育社会、教育文化、生活環境、高齢、女性、青年、笠松保存の9部会がある。



左の写真：ガードレール・カーブミラー清掃の様子(令和2年10月)

住民総出の共同作業が生み出すもの

役割があるから参加する 清掃活動Ⅱ世代間交流

いつから始まったか定かではないほど長年続いているガードレール・カーブミラー清掃。個人でガードレール清掃を行っていた集落内の男性の後を継ぐように自治会の高齢部が担うようになり、少なくとも30年以上は続いています。今では自治会全体の取り組みとなり、自治会員の半数以上となる約100人が参加。作業自体は班毎にチームとなり、高圧洗浄機なども用いて本格的に清掃します。子どもたちはバケツで運んだ水をガードレールにかけ、デッキブラシやスポンジを使って清掃していくなど、それぞれの年代に合わせた役割があるため、子どもから大人までやりがいを持って関わることができ、世代間交流の場としても位置付けています。そんな同自治会が大切にしていくのが、毎月開催する「運営委員会・自主防災会議」という話し合いの場。各部が事業の進捗や悩み

外山東部自治会

川崎

を共有し、解決策を話し合いながら、方向性を決めていきます。また、毎月発行する「自治会だより」では、地域住民から寄せられた課題に対し、どのような取り組みを行ったのか報告するほか、年末には「外山東部自治会10大ニュース」と題し、事業の実施報告や年間の活動報告をきめ細かく掲載。地域全体で共有し合いながら活動を行っています。

「見える化」でやる気UP

資源回収(有価物集団回収事業)にも取り組む同自治会ですが、その方法にはある工夫が。かつては子ども会や役員が中心となり、紙類や空き缶・空き瓶などを集めていました。しかし、子どもが少なくなると、保護者や役員に負担が偏ることが多く、その割に報奨金は多くないため、事業継続が重荷となっていました。

そこで実施したのが事業の「見える化」。報奨金の目標額を明確

に設定し、報奨金の使途や実績を詳細に住民と共有しました。また、紙類や空き缶・空き瓶を中心とした資源回収では報奨金に限界があるため、地域の特徴を生かした「主力資源」の回収にも取り組むことに。同自治会エリアは中山間地域で農家を中心。使用できなくなった農機具やビニールハウスの骨組みなど、多数存在する「鉄くず」の回収を始めました。「家や敷地内の片付けをすることで、地域の財源になるなら……」と、住民も競うように家の片付けをするようになったとか。

併せて、役員等が各戸を回るのはなく、地域内4か所に資源回収場所を設定する方法に変更。各家庭ではそれぞれ最寄りの回収場所に持って行き、その回収場所に業者のトラックが直接向かう流れにしたことで、役員等の負担軽減を図りました。

副会長で総務部長の菅原新市さんは「目標を明確にし、目標に向かって活動しているということ、自分の活動が少なからず地域に恩恵を与えていることなどを、住民自身が感じられるようになり、地域住民の活動意欲が高くなった。前年度の目標額を超えようという機運が自然に出てきているように感じる」と、効果を実感します。

資源回収の仕組み改革をして10年が

共同作業は情報交換の場

「共同事業」として、自治会員が力を合わせて作業するような活動を多数実施している同自治会。作業を通して自然と各種情報共有が図られ、地域住民が地域を知ることができるようにも機能しています。

同自治会エリアにあり、昭和51年に県の天然記念物に指定された「薄衣の笠松」周辺の下草刈りも「共同事業」で行われる作業の一つ。樹齢はおよそ600年と推定され、仙台藩主伊達政宗との逸話もあるとされるこのアカマツは、地域住民による保存団体(昭和42年結成)が手入れ等を行ってきましたが、平成15年頃からは自治会内に「笠松保存部」を設け、自治会活動の一環に。年3回の下草刈りも多くの住民が参加し、文化財(天然記念物)を通じた世代間交流が生まれています。

コロナ禍で事業の実施に躊躇する自

治会が多い中、同自治会では地域の環境美化等に係る事業を実施し続け、多くの住民が従来通り協力的に取り組んでいます。「作業」を「交流」の場と捉え、各住民が参加意義を見出していることの現れかもしれません。

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長

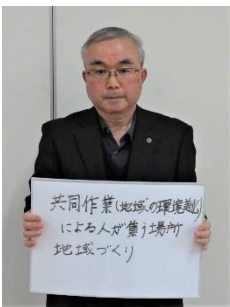


A. 心なごむ 人と自然

うじえい まさとし
氏家政敏さん

2期4年目。60歳頃に帰郷。総務部長を3年勤めてから現在の役職へ。地域のことを常に考え、地元住民にどう関わってもらえるか、試行錯誤しています。

副会長(総務部長)



A. 共同作業(地域の環境美化)による人が集う場所 地域づくり

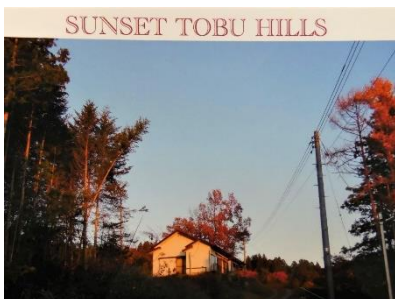
すがわら しんいち
菅原新市さん

参謀役として長年自治会運営に関わっており、自治会事業の見える化などを提案。地域住民の自治会参画意欲を高めることに尽力しています。

- Photo



3世代交流の場としても機能するガードレール・カーブミラー清掃。終了後のねぎらいも大切！(令和3年10月の様子)



夕焼けに染まる公民館 公民館はサンセット・トウブ・ヒルズ(夕日に映える癒しの館)として地域住民の憩いの場として活用されています。

gallery -



4か所の資源回収場所を業者と役員が回り、集められた資源(廃品)をトラックに積んでいきます(令和3年8月の様子)。

目標額を達成すべく



3本あった古木のうち衰弱した1本は平成26年に惜しまれつつも伐採。写真は伐採前に行ったお別れ会の様子。

「薄衣の笠松」

明治19年「常州屋」として創業、昭和37年に「株式会社常州園」として法人化。当初は現在のなのはなプラザ付近に茶葉の製造工場も構えていた（現在は旭町に移転）。店舗では茶葉や茶道具、煙草の販売に加え、紙巻きたばこや煙管用の葉たばこを細く刻む「細刻み」の作業も（茨城県水府村産の葉たばここと千厩町の「東山たばこ」をブレンド）。昭和61年、一関市の都市計画による道路整備で店舗をリニューアルし、当時は画期的だったお茶屋での甘味処（抹茶類やソフトクリーム販売）を併設。現代表取締役社長の佐藤正彦さんは同社の5代目。息子が6代目として次期代表取締役を就任する予定で、「今だから伝えたいお茶の効果」の発信にも尽力中。

老舗お茶屋だからこそ～健康は一杯のお茶から～

136年、大町を見守り続けてきた「お茶屋」

平安時代に始まる日本の「お茶」の歴史。当市に初めて茶葉の加工製造販売を行うお茶屋ができたのは明治19年のこと。初代の佐藤彦蔵さんは、行商先の「一関村（現一関市）」で目の病気を患い、当地に定住すると、故郷「常陸国（旧国名で、現在の茨城県の大部分）」の別称「常州」から「常州屋」と名付け、現在地にてお茶と煙草の製造販売店舗を創業しました（昭和37年に法人化し「常州園」と改名）。

3代目の篤三郎さん（現代表の祖父）の時に常州屋は大きく飛躍。「お茶屋として最も大事なことは仕入れ。実際に自分の目で見る必要がある」と思い立った3代目は、茶葉の生産時期には静岡県へと足を運び、お茶農家からノウハウを学びつつ栽培契約を結びました。良質な茶葉を一関に仕入れることができるようになり、茶葉の販売は県内トップクラスとなりました」と、現代表の佐藤正彦さんは当時について語ります。

太平洋戦争で戦時統制が始まり、茶葉の販売にも制限がかかりましたが、常州屋は「荷受所」とされたため、県内外からお茶屋が買い付けに来た

のだとか。終戦後は、昭和22・23年の大型台風の水害で工場が倒壊し、機械や茶葉も流出。大きな打撃でしたが、新たなご縁で現在の「一関市旭町」に工場を移動し、現在も合組・袋詰・輸送を行っています。

現代表が引き継いだ昭和47年から、スーパーへの卸売を開始。昭和61年には店舗改装とともに、珈琲豆の販売を始め、同時に抹茶類やソフトクリーム販売コーナーも設けるなど、時代とともに「地元のお茶屋」は変化していきました。

※「うぐみ。産地や品種、蒸し具合などが異なる荒茶の特長を見極め、ブレンドすること」

「ホッとできる場所へ」お茶の「効能」も発信して

小学校の総合学習等の一環として見学の受け入れを行っている同社。「普段はペットボトルの緑茶を飲む機会の方が多い子どもたちに急須で入れたお茶を差し出すと『うわ〜美味しい』という歓声があがり、その言葉、その表情がとても嬉しい」と、

佐藤さんも目を細めます。「茶は養生の仙薬なり、延齢の妙術なり」と、健康への効能が語り継がれてきたお茶。そんなお茶の効能をより得ることができるよう「淹れ方」なども伝えるために、同社ではお客様とのコミュニケーションを大切に、お客様にとっての「ホッとできる場所であり続けたい」と語ります。

まもなく6代目（現代表の息子）への継承を予定している同社。6代目は約5年前から営業等の傍らで自社ホームページの立ち上げや、オリジナル商品の開発など、新たな取り組みも始めています。また、「急須でお茶を淹れる」という「日本文化」も大切にしており、市民センター等が開催する「美味しいお茶の淹れ方講座」などの講師を務めることも。

佐藤さんは「若い世代として新たなお茶屋の時代を切り拓きつつ、ここ大町で時代の変化を見守り続けて欲しい」と、お茶と同社の未来に期待を寄せます。



- 1 代表取締役の佐藤正彦さん。茶葉は木箱で密封保存している。
- 2 同社のオリジナル商品も並び、
- 3 急須以外にも手軽にお茶を楽しめる商品を取り扱っている。

DATA

〒021-0881 一関市大町6-1
TEL 0191-23-5152
FAX 0191-23-5310
HP <https://www.jyoshuen.co.jp/>

地域運営の落とし穴②

博識杜のフクロウ博士

第37話

「役の交代」についての傾向と対策

自治会長や各種団体の長、いわゆる「**代表職**のなり手不足」が最重要課題と捉えられがちですが、実はしっかりと気を留めなければいけないのは、「**事務局**」や「**〇〇部長**」などの細かな役ではないでしょうか？

我々も地域と関わる中で、地域活動の要職を担う役員さんたちに日々出会います。「何期目ですか？」と聞いてみると、「2期4年目です」「3期5年目です」と答えるのは、自治会長など代表職の方々。一方、事務局さんとなると「5期9年目です」など、代表職よりも長く役を務められている傾向があります。

長期で役をやっている＝なかなか交代できない実態は、代表職ではなく、事務局や〇〇部長などの裏方さんに多い（班長は輪番制にしている自治会が多く、比較的交代がしやすい）ように感じてきた昨今。確かに、代表職となると、責任の重さや、代表職についてくる自治会以外の会議出席などから、抵抗感を抱く人が多いようですが、目に見える役職ゆえ、交代への理解も得られやすく、なんとかかんとか交代できているように見えます。



ちなみに……。自治会長と行政区長を兼務している人も多い当市ですが、こと行政区長は、10年務めると市長から感謝状が贈られるため、4期8年目くらいになると「あと1期やって感謝状まで頑張れ！」と、周囲から後押しされることもあるそうです（笑）

それはそれで荣誉であり名誉なので、「感謝状まで頑張る」というモチベーションにはつながるものの、必ずしも10年続けられるかというと……。

さて、話を戻すと、今回問題提起したいのは、「役のなり手不足」という課題の中で、重要課題として捉えなければいけないのは、『事務局』のなり手ではないか？』ということです。事務局は組織の事務方として、〇〇部長は実働のリーダーとして、自治会活動に関わっているわけですが、どちらも「経験」がモノを言う役割。※代表職が未経験で務まるかという点と決してそんなことはありません（誤解のないように）、自治会長など代表職に就くまでに、副会長や事務局、〇〇部長の経験を積み代表職に就いている方が多いので、やはり経験あつての役割だということは充分理解しています。

実務レベルの業務を担う事務局や〇〇部長は、各種文書の作成など、パソコンを使つての業務もあるため、パソコンを使い慣れている人が任されることが多いようです。現在、地域の役割を担っている60代～70代の皆さんはパソコンが不得手な人も多いので、拒否することも理解できますが、**今の時代は、仕事でパソコンを使わないことの方が少ないので、現役世代で事務局的な仕事ができる人は多くいると考えられます。**それなのに、役を受けてくれない理由は何か？

ずばり、**役の内容を知らない！**ということが背景にあるのではないのでしょうか？

親世代から「役を受けたら大変だ」という話ばかりインプットされてしまっているの、**どんなことをやっているかという関心よりも、「受けたら大変」というネガティブキャンペーン**になってしまっているのです。

人口減少による地域運営の課題は、支える人と支えられる人のバランスが崩れることから始まります。ゆえに、役のなり手を探すことも大事ですが、その大前提として、**そもそもの「地域運営の仕組み」や「役の内容」について、今一度、家庭内や地域内で共有し、「みんなが知っている」状況を創り出す**ことが必要です。

また、30代～40代の若者からは、「声をかけられたら参加する」「自分にできることなら関わってもいい」という声も。でも、まだ親世代が元気で、親世代がやっているから出番がなく、また「これまで担ってきた先輩方のように完璧にできない」という不安の考えも同時に聞こえてきます。

今の役員たちの次世代である50代～60代が、円滑な地域運営ができるように本気で取り組み、次の30代～40代にバトンをつなぐ、「目に見えない基礎づくり」が、今の頑張りどころではないでしょうか。

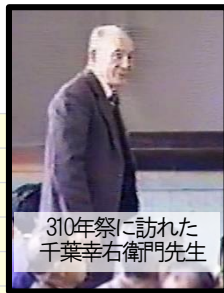


当センターが令和4年2月に開催した「自治会長サミットvol.13」では、「役の交代・なり手について考える」をテーマに市内の自治会長さんたちと情報・意見交換。次は事務局さん向けの情報交換会を開催するかも!?

隠れたドラマ満 八郎右衛門を 取り巻く 裏ヒストリー

昭和27年、花泉町出身の教師・千葉幸右衛門先生が矢越村立矢越中学校に赴任します。幸右衛門先生が八郎右衛門に着目し、その**史実確認**を始めたことで、八郎右衛門は日の目を浴びることになり、現在に至るのです。その略歴が以下。※当センターホームページにて詳細に紹介しています。

明治17年	「朝日館跡」に祠が建てられる。 ※明治20年の可能性あり
昭和27年	千葉幸右衛門先生、矢越中学校に赴任(～昭和37年3月)。 ※昭和26年より矢越に居住 歓迎会で昆野八郎右衛門にちなんだ 浪曲 を聞いたことで興味をもち、独自で調査を開始。
昭和41年頃	東山新報から幸右衛門先生に執筆依頼。昭和43年より「 昆野八郎右衛門伝 」の連載開始。
昭和42年頃	幸右衛門先生、 長坂 での調査開始。複数の 那須家 を訪ね歩き、八郎右衛門の生家を探す。
昭和46年	「昆野八郎右衛門伝」が112回目で終了(未完結)。 ※昭和47年に幸右衛門先生上京(～昭和58年)
昭和52年	「室根商工ニュース」にて「昆野八郎右衛門伝」の連載始まる(東山新報で掲載していた原稿の再掲含め)。
昭和53年	菅原惟一郎氏を中心に「 一心園 」という講をつくり、八郎右衛門神社周辺の 公園化 を進めた(昭和52年に公園用地取得)。「 昆野八郎右衛門首塚 」や「 義民 昆野八郎右衛門之碑 」など、 新しい碑 も建立。
昭和54年	昆野八郎右衛門義民碑建立除幕式(4月)、参道石段竣工(10月)、 参道落成 祝賀会(11月)
昭和55年	「 昆野八郎右衛門300年大祭 」として 300年法要 、祝賀式典を開催。 併せて 記念碑 も建立(「 義民 昆野八郎右衛門大明神 」、「 昆野家の先祖 長曾我部主水之碑 」)。
昭和56年	菅原惟一郎氏他界(94歳)。惟一郎氏の妻含め、同時期に複数の関係者(高齢者)が逝去。
昭和58年	幸右衛門先生、東京から故郷・花泉に帰郷。昭和60年には 墓石調査 など八郎右衛門の研究活動再開。
平成2年	「室根商工ニュース」での「昆野八郎右衛門伝」の連載終了(143回)。
平成3年	「 昆野八郎右衛門310年祭 (名称不明確)」。釘子地域住民の寄進により 社殿を新築 。
平成6年頃	幸右衛門先生の著書『 天和の義民 昆野八郎右衛門伝 』発行。 ※連載をまとめたもの 小山喜久雄氏が釘子出身の女性から「東京に 長宗我部の子孫 がいる」という連絡をもらう。 →小山氏が女性に『天和の義民 昆野八郎右衛門伝』を送ると、その女性が 長宗我部友親氏 に 手紙とともに同本を送った (時期不明確)。
平成22年	「 昆野八郎右衛門330年忌 」。現役の新聞記者だった 那須照市氏 も末裔かつ記者として参加。
平成28年頃	長宗我部元親の末弟・親房から17代目の当主・ 長宗我部友親氏 が 室根を訪れる 。
平成29年	長宗我部友親氏が『 絶家を思う 』発刊。八郎右衛門含む 昆野家 や 那須家 についても記載あり。



310年祭に訪れた
千葉幸右衛門先生



長宗我部氏と室根を
結び付けた
小山喜久雄氏

check! 八郎右衛門が養子に入った**昆野家の先祖(始祖)**は土佐国の戦国大名・長宗我部元親の家臣である**長宗我部主水**であるとされる。長宗我部元親の三女は伊達家に保護され、その次男は伊達家の奉行となっているため、八郎右衛門は直訴に対する措置に期待をしていた可能性がある。長宗我部家の末裔が幸右衛門先生の著書を機に平成28年頃当地を訪れた。

末裔 ファイル3

釘子村を救った天和の義民

昆野八郎右衛門

八郎右衛門が生れた家の末裔

那須照市さん



那須照市(なすしょういち)
昭和34年生まれ。岩手日日新聞社を退
職後、現在は川嶋印刷(株)広報制作室編
集長。趣味は合唱とゴルフ。

直訴に向かう前に離縁しているものの、八郎右衛門には2人の子がいたとされ、娘は妻の出身地・徳田村(藤沢町)の星家に嫁ぎますが、**釘子村に分家(朴木屋敷)**。朴木屋敷は現在貸家となり、家主(=末裔)は当市内にはいないとか。息子も釘子地内に住居を構えた(**角地屋敷**)とされますが、現在は空き家となり、その子孫も遠方にいるようです。一方、八郎右衛門の生家の家系(長坂村・**那須家**)は脈々と受け継がれ、現在の当主は**那須照市さん**です。

那須さんが初めて金野八郎右衛門神社を参拝したのが**330年忌**の時。当時は岩手日日新聞社で記者をしており、**末裔であり記者でもあるという立場で参加**。自らが末裔として映った集合写真とともに記事にし、八郎右衛門の功績と、地域が顕彰に努める様子を紹介。その時の記事は現在の神社管理に大きく貢献する小山喜久雄さんが立派に保管しています。
「『間違っていることは間違っていると言う、**正論は曲げない**』という自分の性格は、八郎右衛門に通じる部分がある。八郎右衛門を知ってその想いはより強くなった」という那須さん。同じく新聞記者だった長宗我部氏との出会いにも、運命を感じます。

本誌面に掲載しきれなかった情報や画像等を当センターホームページにて公開しています。ぜひご覧ください。



那須さんによる330年忌の
記事(平成22年9月26日
岩手日日新聞社)

<参考文献 ※一部(記載しきれなかったものは当センターHPにて掲載)> 千葉幸右衛門(1991)『天和の義民 昆野八郎右衛門伝』/ 長宗我部友親(2017)『絶家を思う』/ほか<協力>小山喜久雄氏(室根町釘子)、星義弘氏(藤沢町徳田)、室根史談会、ほか

地域の‘気になること’をセンタースタッフが独自に調査!

ミッション 66

末裔調査 ファイルNo.3

こんの はちろうえもん 昆野八郎右衛門

当地域には郷土の誇りと言える偉人が数多く存在します。偉人そのものの功績もさることながら、その「末裔」を調査し、会いに行くシリーズ「末裔調査ファイル」。第3弾は室根町釘子地区で語り継がれてきた義民・昆野八郎右衛門。今でこそ「昆野八郎右衛門神社」が建てられ、郷土の誇りとして知られる存在となりましたが、その陰には数々のドラマが……! また、驚くべき人物との関係性も明らかになりました!

※記載内容はあくまでも当センター独自調査の結果です。

昆野八郎右衛門ヒストリー

▼室根市民センター所蔵の『昆野八郎右衛門物語』を参考にまとめました。



※八郎右衛門の首は遠縁の**昆野家**が貰い受けたとされ、その当時のものと思われる**首塚**と**石碑(塚の上)**が現在も残っている(昭和53年に新たに建立した首塚もある)。

■**昆野八郎右衛門の生涯**
江戸時代前期、**長坂村(現東山町長坂)**の**肝入の子**として生まれた八郎右衛門は、15歳で**釘子村(現室根町矢越)** **肝入・昆野茂左衛門の養子**となり、28歳で徳田村(現藤沢町徳田)の星惣五郎の娘と結婚します。
38歳の時に養父が病死。八郎右衛門はその後を継いで**肝入役**を命じられます。当時、釘子村含め上折壁、下折壁、浜横沢、上奥玉、上曾慶、砂子田、津谷川の8か村は伊達氏の家臣・石川大和宗弘の領地で、釘子に代官所がありました。
八郎右衛門がおよそ50歳の頃(推測)から釘子村周辺では**4年にわたって凶作**が続ぎ、農民の暮らしは困窮を極めました。肝入として代官

に年貢を軽くするよう懇願したものの、事態は変わらず、村人の中には**一揆を企てる動きも……**。
一揆を起こせば女性や子ども含め、村中に処罰が下される可能性もあり、「**暴力に訴えてはいけない**」と、村人をなだめ、**自らが伊達藩主・伊達綱村に「直訴」すること**を**決意**します。
直訴は罪とされる時代。妻子にも処罰が下される可能性を考慮し、八郎右衛門は自己の所有地や物品を子女に分け与えたのち、**妻子とは離縁**。自らの名も改名し、一人で仙台へ赴くと、町奉行などの家に奉公しながら、直訴の機会を待ちました。
八郎右衛門は綱村公が「東照宮」を参拝する機会に合わせ、宮町(仙

台市青葉区内)にて**訴状**を差し出すことに。青竹に挟んだ訴状を綱村公の駕籠の前に差し出しますが、警護の役人たちに捕えられます。
天和2年、八郎右衛門は処刑されましたが、直訴により、石川大和宗弘の領地は伊達家の直轄地となり(領主や代官は所替)、年貢も穀納から金納に改められるなど、村人の負担は軽くなったのです。
村人にとっては英雄の八郎右衛門ですが、仙台藩にとっては罪人。八郎右衛門の首は釘子村の縁者が貰い受けたものの、すぐにお祀りするこがでず、**処刑から約150年後**、屋敷跡に**小さな祠**を、**明治20年**にようやく「**八郎右衛門神社**」として公にお祀りするに至ったのです。